静　岡
SHIZUOKA

F1日本グランプリ
～富士スピードウェイで開催～

自動車レース最高峰のＦ１日本グランプリ（ＧＰ）が9月28日（金）から30日（日）まで、小山町の富士スピードウェイで開催された。

「富士」のＦ１は1976、77年以来30年ぶり。今大会は静岡県知事が名誉総裁、地元2市1町（御殿場、裾野市、小山町）の首長が名誉副総裁を務めた。地域も盛り上がりを見せ、小山町では商工会、観光協会とＦ１日本ＧＰ協力会を設立し、カウントダウンイベントや横断幕・のぼり旗の掲出などを展開した。

3日間の来場者は約28万2千人。県内の経済波及効果は、ホテル、旅館の宿泊や会場内の物販・飲食ブース売り上げ、大会スタッフの弁当代などで約31億8千万円と推計される。

また報道陣も多く、25カ国、約300人のジャーナリストが詰め掛け、熱気に包まれていた。パドック、ピットエリアもあるメディアセンターに入るには厳重なチェックが必要。センターは英語のできるスタッフが常駐し、掲示板の情報提供も英語表記。プレスルームには約100台のモニターが設置され、コースやマシンに取り付けられたカメラの映像が刻々と映し出された。

各国のジャーナリストが訪れたメディアセンター
（写真提供　静岡新聞社）

Ｆ１日本ＧＰの決勝レースでのピット作業
（写真提供　静岡新聞社）

2日目からは76年の日本初のＦ１を思い起こさせるような雨と霧となった。最終日の決勝はスピン、接触が相次ぐ波乱の展開。甲高いエンジン音を響かせ、水しぶきを上げながらマシンが疾走すると、スタンドの観客から歓声が上がった。

交通は27カ所の駅、駐車場からシャトルバスを使うか、ツアー団体バスに乗るかに来場方法を限る「チケット＆ライド方式」を国内Ｆ１レースで初めて採用した。東名高速、国道を含め周辺の道路に渋滞などの影響はなかったが、場内では帰りのシャトルバスを待つ長蛇の列ができた。日本ＧＰは来年も富士で開催され、2009年からは鈴鹿サーキットと隔年で交互に開かれる。課題も浮き彫りにされたが、スピードウェイのみならず地元自治体・商工関係者の地道な努力により多くの成果を上げることができた。

北駿地区は富士山、箱根など有数の観光地に囲まれている。F1開催をきっかけに、官民、自治体、県境を超えた連携を深め、さらなる地域経済の活性化や交流人口の拡大につながることを期待したい。

S H I Z U O K A

神奈川
KANAGAWA

水族館も「展示革命」八景島は体験型導入

旭山動物園（北海道旭川市）に代表される「展示革命」が、水族館にも波及してきた。この夏、横浜・八景島シーパラダイス（横浜市金沢区）は、行動・生態展示に体験型を加味した3番目の水族館をオープンし、最先端の施設に生まれ変わった。

できるだけ狭い檻から開放し、動物本来の能力を見せるのが行動展示。また、その動物が本来生息している環境を、忠実に再現するのが生態展示だ。旭山動物園は、これらの展示方法を効果的に取り入れて、「展示革命の旗手」と称された。

今年7月、八景島シーパラダイスにオープンした「ふれあいラグーン」は、この水族館版とでもいうべき施設だ。動物園よりさらに進化したと思われるのは、施設名の通り、人間と海の動物との「ふれあい」が楽しめる工夫が、随所に凝らされている点である。

例えば、鯨類ゾーンの水槽はガラス張りの開放型で、水面も壁面も人間の胸の位置より低く、来館者は楽々と水面に手を差し伸べ、鯨やイルカの体に直接触ることができる。スタッフがそばに付いているので、危険性はないという。

魚類ゾーンには、規模は小さいが、東京湾の砂地や岩礁が本物そっくりに再現され、タコやヒトデ、ナマコなどが放たれている。来館者は裸足になって潮だまりに入り、箱めがねで水中を観測したり、魚や小動物を手に取って感触を確かめたりできる。

八景島シーパラダイスは、国内最大級の水族館「アクアミュージアム」を中心とするレジャー施設として1993年に開館。初年度は400万人の入館者を記録したものの、翌年度から集客力が落ち始め、01年度は148万人まで減少した。

2番目の水族館「ドルフィン・ファンタジー」を新設した04年度は194万人と持ち直したが、一年だけの効果に終わり、06年度も170万人と低迷。総事業費約16億円を投入した「ふれあいラグーン」のオープンで、07年度は200万人台回復を狙う。

鯨やイルカの体に直接触ることができる「ふれあいラグーン」の水槽

八景島シーパラダイスは3館体制となった翌月、入館者累計3,000万人を達成し、幸先のいいスタートを切った。国内では、老舗の鳥羽水族館（三重県、55年開館）、須磨水族館（兵庫県）、海遊館（大阪府）などに次ぐ7番目の快挙だ。

しかし、安心はできない。展示革命は徐々にではあるが、他の水族館でもスタートしている。アクアマリンふくしま（福島県）が00年にオープン。これを追って、沖縄美ら海水族館（02年）、新江ノ島水族館（04年）なども全面改装や建て替えを行い、新たな展示方法を試みた。

新江ノ島水族館は、建て替えオープンした04年度に184万人を集客し、その後も百数十万人台を維持。旧水族館がクローズした時点では年間約30万人だったので、展示革命の効果は歴然としている。

昨年は、しながわ水族館（品川区）にアザラシ館、京急油壺マリンパーク（神奈川県三浦市）にペンギン島、今年も、のとじま水族館（石川県）にイルカたちの楽園などがオープン。水族館の知恵比べは、これから本番を迎える。

K A N A G A W A